

公益社団法人 日本農芸化学会関東支部 2018年度バイオサイエンス・スクール

(報告者: 熊谷日登美, 新町文絵 [日本大学 生物資源科学部])

平成30年8月28日

2018年度学校教育における農芸化学の普及活動補助報告書

標題の件、以下のとおりご報告を致します。

1. **セミナー名:** バイオサイエンス・スクール2018 ～高校生のための実験セミナー～
2. **開催日時:** 2018年8月6日(月)10時から16時
3. **開催場所:** 日本大学 生物資源科学部 各学科実験室および講義室
4. **実施実験内容:**
 - Menu1 **ゼリーでバイオサイエンス ～食で人を幸せにしたい** 食品ビジネス学科・若林素子, 清水友里
 - Menu2 **ヨーグルトの中の乳酸菌を見てみよう!** 応用生物科学科・高橋恭子, 中西祐輔
 - Menu3 **分子が彩る香りの世界** 生命化学科・袴田航
 - Menu4 **香の神秘～香の成分を抽出しアロマキャンドルを作る～** 生命化学科・熊谷日登美, 赤尾真, 山口勇将
 - Menu5 **お茶に含まれる抗酸化成分を調べてみよう!** 食品生命学科・松藤寛, 大槻崇
 - Menu6 **ラクターゼの誘導～大腸菌が食べ物を選ぶメカニズム** 応用生物科学科・上田賢志
 - Menu7 **コメのDNA鑑定** ぐらしの生物学科・新町文絵, 生命化学科・伊藤紘子
 - Menu8 **血液って固まる? 固まらない?** 生命化学科・関泰一郎, 細野崇
5. **参加人数:** 実験参加者: 高校生72名、中学生4名、合計76名(キャンセル16名含まず)
 実験見学者: 18名(保護者および高校教員) 神奈川県青少年科学体験活動推進協議会: 担当1名
6. **活動報告:**

本年も日本農芸化学会関東支部の多大なるご支援により、日本大学生物資源科学部湘南キャンパスにおいて、高校生のための実験セミナー『バイオサイエンス・スクール2018』を開催いたしました。昨年より受入れ主体を日本大学生物資源科学部生命化学科から日本大学生物資源科学部男女共同参画推進委員会に変更し、学部所属の日本農芸化学会会員が実験を担当しました。実験には76名の高校生・中学生が参加し、参加者の一部は、神奈川県青少年科学体験活動推進協議会のサイエンスキャリアプログラムの一環としての参加となっています。

開会にあたり日本農芸化学会関東支部長の浅見忠男先生からご挨拶と動画を使って植物ホルモン研究を中心として農芸化学についてもご紹介頂きました。また本大学生物資源科学部学務担当で、生命化学科教授の関泰一郎先生から、学部を代表してのご挨拶の後に続けて、「農芸化学とは」の講義をしていただきました。本実験セミナーは、実験を体験するだけでなく、農芸化学という学問分野についても理解を深める機会となるようなものにと考えて全体講義を設けております。「農芸化学」の言葉の意味から、幅広い研究分野と身近な生活の中にある農芸化学の研究成果についてお話し頂きました。高校生にも大変わかりやすい講義で、アンケートの農芸化学への興味が増しましたかの問には、非常に興味を持った(18%)、比較的興味を持った(41%)、興味を持った(36%)を合わせて95%となりました。全体講義の後は、各Menuに分かれての活動といたしました。大学食堂を利用した教員・大学生との昼食会、大学生・大学院生による実験指導も実施し、実験だけでなく大学での生活を知る機会となるようなセミナーといたしました。(裏面につづく)

浅見支部長
のご挨拶



関教授ご講義
「農芸化学とは」



受付の様子
1



受付の様子
2



JSBBA KANTO

参加者アンケートの結果、ほとんどの参加者が大変満足・満足と回答し、知的好奇心を満たした、実験を通して科学(理科)に対する興味が増したとの回答も9割以上となっております。また実験補助の学生たちが非常に良いロールモデルとなっており、参加高校生の研究への興味やモチベーションにつながったと思われます。今回の実験セミナーを通じて、参加された皆さんには『農芸化学』が何かを知り、大学生・大学院生と接し大学の雰囲気を経験し、実験を通して科学・理科の楽しさを感じて頂くことができましたと思います。

7. 活動報告: 実験中の様子を以下、写真にて報告致します。

